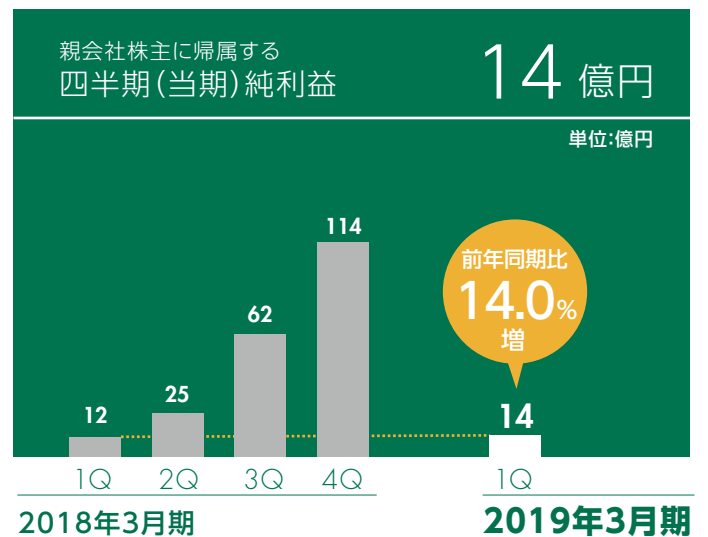
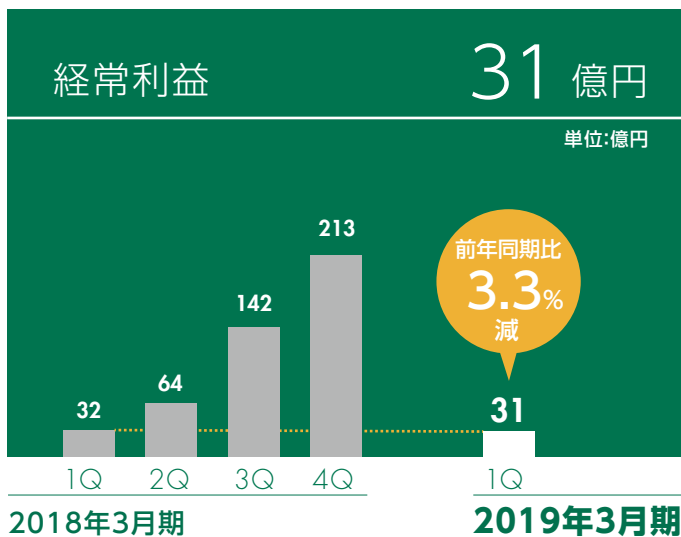
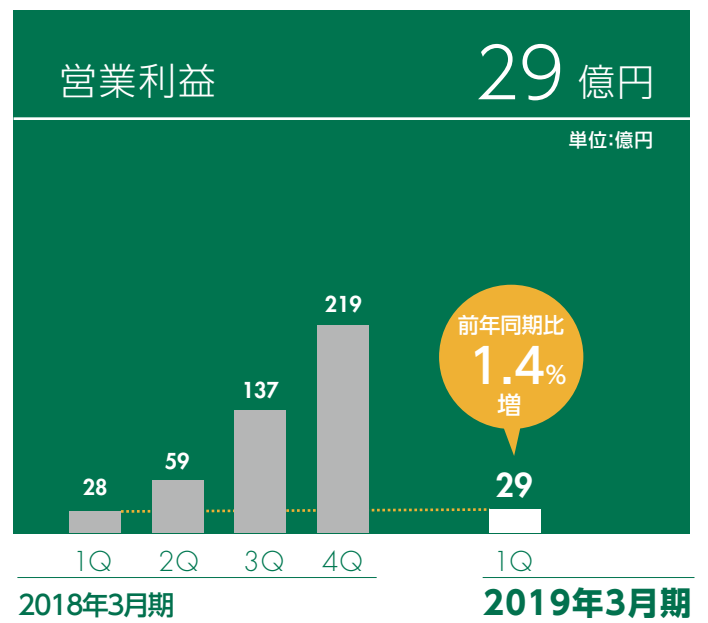
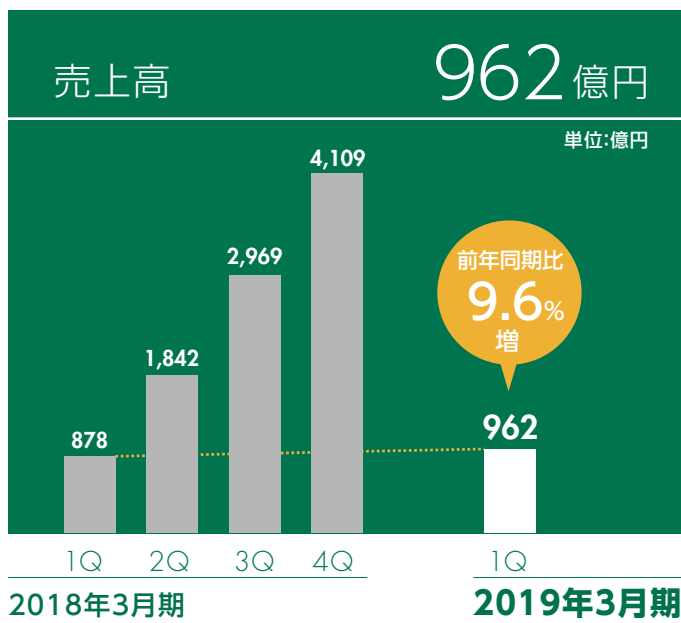


第15期  
第1四半期決算ご報告

2018年4月1日から  
6月30日まで

株主のみなさまへ

連結業績ハイライト



# TOP MESSAGE トップメッセージ

売上高は前年同期比9.6%増、営業利益も同1.4%増と好調なスタートとなりました。

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

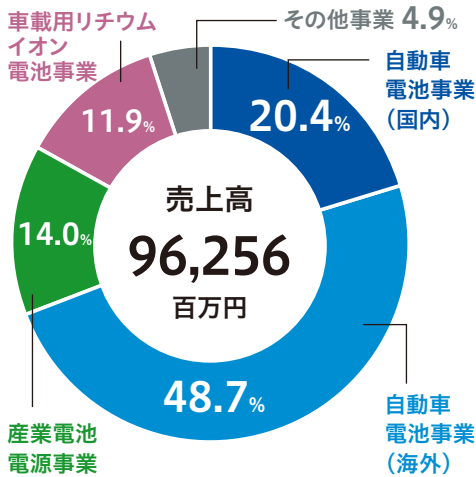
さて、ここに第15期(2018年4月1日から2018年6月30日まで)の業績や取り組みについて、ご報告申し上げます。

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益および雇用環境の改善を背景に、個人消費の持ち直しが見られるなど、景気は緩やかに回復しました。

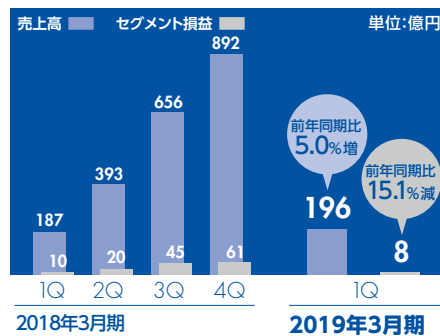
このような経済状況の中、当社グループでは、主として自動車電池事業における国内の補修用需要および中国での販売が堅調に推移したことに加え、車載用リチウムイオン電池の販売が増加したことなどにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は、962億56百万円と前第1四半期連結累計期間に比べて84億50百万円増加(9.6%)し、営業利益は29億17百万円(のれん等償却前営業利益は34億56百万円)と前第1四半期連結累計期間に比べて40百万円増加(1.4%)しました。一方、経常利益は、為替差損の計上により31億65百万円と前第1四半期連結累計期間に比べて1億8百万円減少(△3.3%)しました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用が減少したことにより14億30百万円(のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は19億92百万円)と前第1四半期連結累計期間に比べて1億75百万円増加(14.0%)しました。

取締役社長 村尾 修

## セグメント別業績の報告(連結)



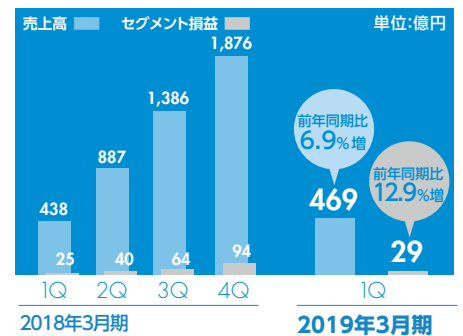
### 自動車電池事業(国内)



**売上高** 補修用需要が堅調に推移したことにより増加。

**セグメント損益** 物流費などの経費増加により減少。

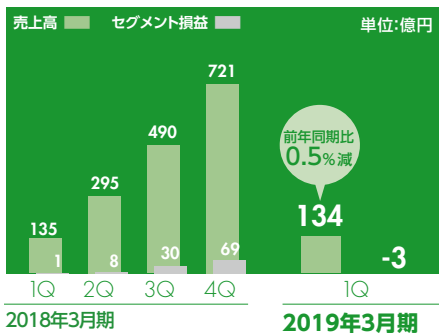
### 自動車電池事業(海外)



**売上高** 中国での販売が増加したことに加え、鉛価格の上昇分の売価転嫁が進んだことにより増加。

**セグメント損益** 売上高と同様の理由により増加。

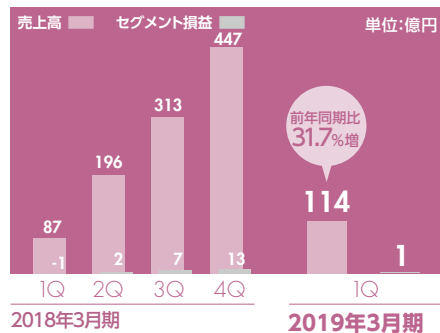
### 産業電池電源事業



**売上高** 産業用鉛蓄電池やフォークリフト用電池の販売が好調に推移したものの、照明機器の販売減少や一部事業譲渡の影響などにより減少。

**セグメント損益** 鉛価格の上昇の影響などにより減少。

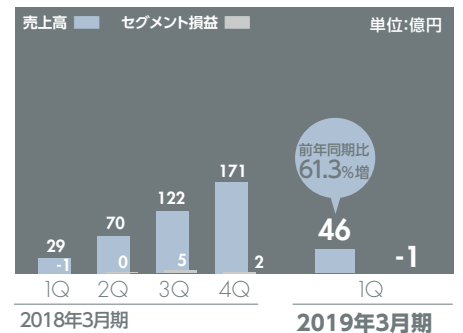
### 車載用リチウムイオン電池事業



**売上高** ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が減少したものの、プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が増加したことにより増加。

**セグメント損益** 売上高と同様の理由により増加。

### その他事業



**売上高** 潜水艦搭載リチウムイオン電池の生産増加により増加。

**セグメント損益** 研究開発費用が増加するも、潜水艦搭載リチウムイオン電池の増産効果などにより改善。

(注)1 自動車電池事業(海外)には従来より取り扱う海外産業用電池の取引高の一部を含んでおりましたが、当第1四半期連結会計期間より、産業電池電源事業に変更しております。前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントにより記載しております。

(注)2 セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

### GSユアサの電力バックアップ用電源装置が、 社会インフラを支え、人々の暮らしの安心・安全を守ります。

近年、地震や洪水などの災害が多発している影響で、電源のバックアップシステムの重要性が見直されています。大規模災害時、交通機関の制御システムや消防、水処理施設などの社会インフラは、万が一の停電も許されません。こうした場所で、優れた性能と品質を有する当社の電力バックアップ用電源装置が活躍しています。

当社は電力バックアップ用電源装置の開発・製造・販売はもちろん、保守・メンテナンスなど充実したサポートで、社会インフラを支えています。

1 高信頼性

2 用途により  
選べる蓄電池

3 幅広い  
ラインアップ

GSユアサ製品の  
3つの特徴



### 政府が地震対策の強化を呼びかけ。 電力バックアップ用電源装置の役割はますます大きくなっています。

南海トラフ巨大地震や東南海地震、そして、今後30年以内に70%以上の確率で発生するといわれる首都直下地震は、甚大な被害になると予測されています。そのため政府は、交通、情報通信、ライフラインなどの各種インフラにおいて、「強化化」、「耐震化」、「多重化」を図るとし、大規模災害による影響に備えた方針を発表しています。

当社は社会インフラに使用される電力バックアップ電源装置の性能や品質をさらに高め、多重化、分散化される発電・電源システムの需要に応えることで、今後も社会に貢献していきます。

#### 首都直下型地震に対する対策基本計画

発電・蓄電システムの  
強化化

発電・蓄電システムの  
多重化

発電・蓄電システムの  
分散化

# TOPICS

## ミャンマーに鉛蓄電池の新会社を設立

### モータリゼーションの進展が期待されるミャンマー

現在、当社グループの生産・販売拠点は海外17カ国37拠点に広がり、2017年度の海外事業の売上高は1,800億円を超えました。アジアでは自動車・オートバイ用ともにNo.1のシェアを堅持。さらに多くのお客様に当社の製品を提供するために、現地のニーズに沿った製品開発を進めています。

そのような状況の中、モータリゼーションの進展が期待されるメコン経済圏でもとりわけ需要が拡大しているミャンマーで、2018年1月、新会社 Siam GS Battery Myanmar Limited を設立しました。ミャンマーでは、2011年に自動車輸入に関わる制度改革が行われたのを機に急速に市場が拡大しました。人口に対する自動車の普及状況を他のアジア諸国と比較して

も、まだまだ成長の余地があります。一人当たりGDPが3,000ドルを超えれば、自動車もインドネシアやフィリピンのように、保有台数が人口の10%程度まで増加していくと考えられます。

### 充電・営業・物流の3つの機能を備えた新会社

新会社は、2019年1月の操業開始を予定しています。充電・営業・物流という3つの機能を備え、自動車だけでなく、家庭電源用を含む鉛蓄電池の輸入、充電、卸売販売を展開し、迅速な電池供給の実現を目指します。

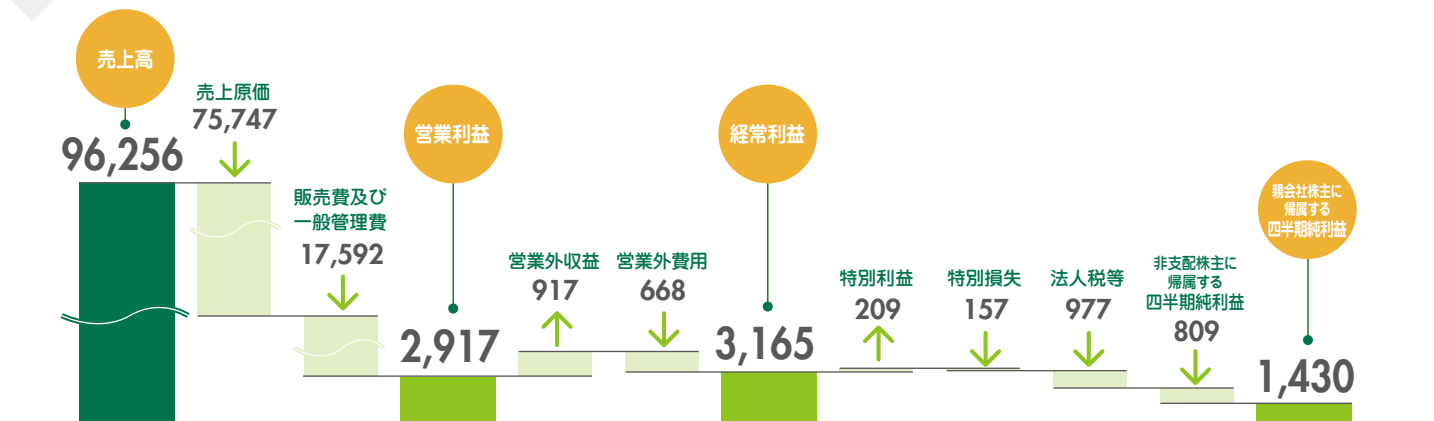
今後の成長が期待できる市場で、100年培ってきた技術を活かし、品質向上とサービスの強化によって、これからも世界中のお客様へ快適さと安心をお届けします。



外観予想図

社名	Siam GS Battery Myanmar Limited
所在地	ミャンマー共和国 ヤンゴン管区 ティラワ工業団地
設立年度	2018年1月9日
出資金	7,140,000 USドル (約750百万円)
出資者	Siam GS Battery, Co., Ltd. 株式会社GSユアサ
事業内容	自動車用、家庭電源およびその他鉛蓄電池の輸入、充電、卸売販売
敷地面積	8,920㎡

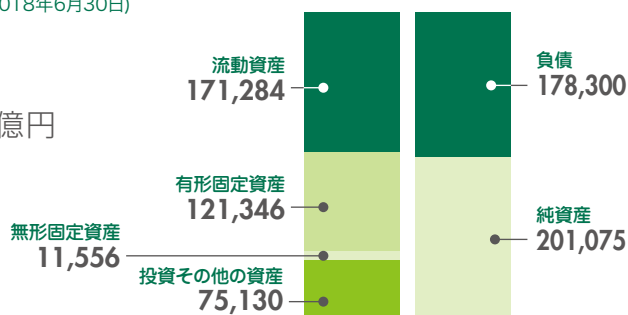
## 連結損益計算書 (百万円) 当 第1四半期(累計) (2018年4月1日~2018年6月30日)



## 連結貸借対照表 (百万円)

当 第1四半期末 (2018年6月30日)

総資産  
3,793 億円



## 会社概要 (2018年6月30日現在)

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション GS Yuasa Corporation
事業目的	傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	平成16年4月1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地
電話	(075)312-1211
ホームページ	<a href="http://www.gs-yuasa.com/jp">http://www.gs-yuasa.com/jp</a>
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場 第1部

IRサイトで情報を発信しています。 <http://www.gs-yuasa.com/jp/ir>

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

UD FONT